



ゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル 2018 写真館

フェスティバルの様子は、岩手朝日テレビで 8 月 4 日(土)の 13 時 00 分から放送されます。

日 時： 平成 30 年 7 月 7 日(土)～8 日(日)
 会 場： いわざんスタジアム(盛岡南公園球技場)
 主 催： 公益社団法人岩手県サッカー協会／公益財団法人盛岡市体育協会
 共 催： 株式会社岩手朝日テレビ
 主 管： 公益社団法人岩手県サッカー協会 キッズ委員会
 後 援： 岩手県教育委員会／盛岡市／財団法人岩手県体育協会
 特別協賛： [ゼビオ株式会社](#)
 協 力： ミズノ株式会社／株式会社グルリット
 大会ゲスト： 松田賢太さん(元グルージャ盛岡選手、現強化・プロモーション担当)
 決勝戦特別解説： 松木安太郎さん(サッカー解説者)
 参加者総数： 1,116 名 (U-10 64 チーム 821 名、U-8 41 チーム 295 名)
 運営スタッフ： キッズ委員会キッズスタッフ、チーム帯同審判・ユース審判ほか

1 日 目 ◆7 月 7 日 (土)

- ・U-10 の部 予選リーグおよび決勝トーナメント進出決定戦 (8 人制ゲーム、64 チームを 16 グループ分け、グループ上位 2 チームが 2 日目の決勝トーナメント進出決定戦を行う)

U-10 開会式の様子



(公社)岩手県サッカー協会 森亮専務理事による挨拶

U-10 試合の様子





2日目 ◆7月8日(日)

- ・U-8の部 リーグ戦(5人制ゲーム、41チームを10グループ分け)
- ・U-10の部 決勝トーナメント

U-8開会式の様子



U-8 試合の様子





U-10 決勝トーナメント戦の様子





U-10 決勝戦の様子





U-10 表彰・閉会式の様子



【2日間を終えて】.....

<U-8 フェスティバル担当（新沼真介）のコメント>

「ゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル 2018」を7月7日、8日の2日間にかけて開催しました。

U-8の部は、8日の午前に開催しました。悪天候の中でもなんとか開催でき、たくさんの熱戦が展開されました。雨にも負けずみんな精一杯走り、ボールを追いかけ、時には転びながらも一生懸命頑張っている姿はとても印象的でした。

挨拶も大きい声で元気がよく素晴らしかったです。観客席のお父さん、お母さん、家族のみんなにもしっかり届いていました。

プレーの面ではU-8でも、しっかり両足を使ってプレーしている子、アウトサイドを使ってドリブルしている子、しっかりミートしてシュートを撃っている子など、技術がしっかりしている子が何人かいました。

U-8年代のゲームで一番重要なのは「楽しむこと」です。これからも楽しみながらサッカーをしてほしいです。

ルールの中で、楽しむことを大前提として今回のフェスティバルを運営しました。そこに関わってくれた指導者、コーチの方々には全ての想いを伝えることはできなかったかもしれませんが、皆様のご協力のもと滞りなく終了できたことを感謝いたします。ありがとうございました。

来年度も盛大に開催できればと思いますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。

<U-10 フェスティバル審判部（千葉晃徳）のコメント>

「ゼビオカップキッズサッカーフェスティバル 2018」の運営に関わり、ユース審判の活躍の場をいただきました。

岩手県内各高校から、審判資格者13名が参加してくれました。各高校の先生方には、大会開催のご理解と派遣のご協力、誠にありがとうございました。

今回の大会におけるユース審判の活用内容を事前に瀬谷キッズ委員長よりご提示頂いた事で、方向性がはっきりしておりました。「今回参加してくれたユース審判には必ず一回は笛を吹いてもらおう」という目標を念頭に調整しました。

集合時点で、確認を全員に行い、割当を作成しました。その中で、「必ず一回笛を吹く」という目標を達成するために、初めてユース審判だけで審判運営するマッチスケジュールを組みました。そして、ほぼ参加者全員のレフリングを見るようにして、可能な限りアドバイスさせて頂きました。

毎試合ごとに良かった点と改善点を伝えるように心掛けて、強化を図りました。2日目の2回戦以降をユース審判のみで審判運営するという、これもまた新たな試みを実施しました。生徒もトーナメントの重みを感じながら、責任感と覚悟をもって臨んでくれました。

キッズの子達のスキルもステージが上がるにつれて、しっかりしているチームが残った印象を持ちました。ユース審判の審判スキルもそれに比例して上げていくことが出来ました。

決勝前にしたアドバイスも実践してくれて、子供達の白熱したゲーム内容にあったレフリングをしてくれたと思いました。新しい試みをして、無事に大会も終わり、「必ず1試合は笛を吹く」という大会を通しての目標と「決勝戦を任せられるユース審判の育成」という私の目標を達成出来ました。

これは、ユース審判の頑張りだけでなく、ユース審判の活用に賛同して頂いた参加チームの代表者・指導者の方々のご理解とご協力があった結果です。本当にありがとうございました。

そして、2日間頑張って運営協力してくれた生徒の皆さんにも感謝しております。最後のミーティングの時の皆さんの目は、非常にいい目をしていました。今後の活躍、期待しています。

本当に2日間お疲れ様でした。ありがとうございました。

派遣して頂いた各高校のサッカー部顧問の先生方にこの場をお借りして、お礼を述べさせていただきます。

<全体運営責任者（瀬谷圭太 キッズ委員会委員長）の総括コメント>

1 あいさつ

ゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル2018に参加していただきありがとうございました。参加していただいた選手のがんばり、保護者の熱い応援、チーム監督やスタッフの皆様の協力のおかげで、大きな事故もなく無事に進めることができました。

今回のフェスティバル全体を通して見ると、礼儀正しく、元気のある2日間だったと思いました。多くの場所であいさつや私たちスタッフに声をかける姿が見られました。きっとこれは、サッカーを楽しもう、サッカーが大好き、いわぎんスタジアムでサッカーができてうれしい！などの気持ちがあったからだと思いました。

また、開会式でグリーンカードの話を保護者やチームスタッフに向けてさせていただきました。たくさんの方々の保護者、監督、関係者の方々にフェアプレーの大切さについて温かい言葉をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

運営責任者として見た2日間を総括したいと思います。

2 U-8

U-8では、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」をたくさん感じてもらいたいと思いながら試合を見ました。

見る視点として、開会式でも話した

- ① 全力
- ② 協力

の2つことを意識しました。

どのピッチでも、歓声が上がリ、楽しそうであり、さらに真剣なまなざしでボールを追いかけている姿がたくさん見られました。

全力に関しては、チームを引っぱって走ったり蹴ったりする姿が印象的でした。

協力に関しては、仲間に声をかけるシーンが数多く見られました。「ドンマイ」「そっちに行ったぞ!」「ナイスシュート!」など仲間を考えた言葉は素敵だなと思いました。そこに対して、各チームスタッフがほめるシーンも良かったと思いました。

サッカーをしたい、勝ちたい、シュートしたいなどサッカーを楽しむ本質が現れる場面だったと思います。U-8年代としては、この気持ちが大変だと思います。

これからもあきらめない選手にはどんどんグリーンカードを出したいと思います。

最後に、せっかくなので、U-8にも課題を。「考えてプレー」することです。「何のために〇〇をするのか」を考えてプレーすること宿題としたいと思います。ただボールを蹴ることが楽しいということから、「こんなプレーをしたい」と思いを持つことで、もっと成長します。各チームにこれができる素敵な選手がいました。ぜひ、チームの中で共有して、考えられる選手になってほしいですね!

3 U-10

U-10では、3つの視点を持って見ました。これは毎年の視点です。

1つ目は、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」と「本気の勝負」を、子どもたちに、たくさん体験してもらいたい、と思いながら試合を見ました。

2つ目は、4年生までの年代で、どんなことができて、どんなことが課題であるかを、指導側として、これから先を見据えるための視点を持って見ました。

3つ目は、オン・ザ・ピッチでも、オフ・ザ・ピッチでもグリーンカードに値するプレーがたくさん出るかな?と思いながら見ました。

(1) サッカーを楽しむこと・本気の勝負

- ・今回のフェスティバル、初日の予選リーグでは、1点を争う白熱したゲームが多くありました。その中で、本気の自分のプレーをし、本気の相手との勝負を通して、さらに上手になったり、もっとうまくなろうという気持ちを持ったりという場面をたくさん見させてもらいました。

- ・また、点数がたくさん入る試合もありました。素晴らしいと思ったことは、最後まであきらめないでプレーする子どもたちの姿です。結果も気になるころではありますが、育成年代です。今日の勝ち負けで得られることも有ります。しかしそれ以上に、今回の試合を通して経験したことがこれからの力になります。
- ・私たちスタッフは2つの視点を持っています。
一つは今の子どもたちに指導すること。
もう一つは、「後伸び」する心と技術を伝えることです。
チームとしての成長を見ることができました。勝って喜んだり、負けて悔しがったり。その本気の勝負を通して、「こういうプレーをしよう！」と考えたり、「次はがんばろう！」という気持ちになったりしたようでした。
- ・選手は勝利を目指して、工夫をすることが必要な年代です。監督・コーチは、子どもたちの願いを感じながら育成の視点をしっかり持って指導することが役割です。
キッズプログラムの本質は、サッカーを楽しむことです。そのことがサッカーを好きになり、生涯にわたって運動文化やサッカー文化を楽しんでいくことになります。
- ・今回のフェスティバルを通して感じたこと、考えたことを是非今日からのサッカーライフに生かしていただければ幸いです。

(2) できたことと課題

① できたことと課題。

★ボールを持ったときに、ゴールに向かうプレー。

- ・ドリブルで突破を試みるプレーが良かったです。
また、ゴール前で落ち着いてまわりの仲間にパスをする場面も見られました。
- ・育成年代なので、勝ち負けがすべてではありません。どんなことを学んで次にどうつなげるかがいちばんです。
その中で、次につなげる宿題としては、何のためのコントロールか、ということ意識することがこれから伸びる選手になると思います。

★キック

- ・今回のフェスティバルでの「運命」を分けたことはキックでした。
☆ゴールキックからのボールを、仲間にねらって蹴ることができること
☆ドリブルをして相手を交わしてキーパーに取られない位置にシュートを決めること
☆コーナーキックで仲間に合わせるキックができること
☆試合の中でつなぐパスを丁寧に蹴ること
などができているチームが多くありました。
- ・これからにつながる選手たちに宿題。
試合で使うキックです。
相手からのプレッシャーがある中でも、ねらったところに蹴ることができることです。
きっと悔し涙を流した選手は、次に勝ちたいと思うでしょう。まずはこのキック練習から工夫して練習するといいですね。
- ・育成年代、しかも今成長をしようとしているU-10の時期。
その時期にすべての選手に、遠くまで届くキックを求めているわけではありません。
ただ、これからの課題として少しずつ上手になるといいですね。

★ポジションの役割

- ・2日間を通して、自分のポジションの役割を果たしているプレーがありました。サッカー理解がこの年代でも進んでいるのだなと思いました。
- ・8人制サッカーの利点を生かし、みんなで攻撃、みんなで守備をすることを意識しながら、ポジションごとの役割を少しずつ考えても良いかもしれませんね。
- ・キッズリーダー講習会でもお話していますが、「自分と仲間と相手のサッカー」にするために、ポジションを意識して、仲間を意識して、協力する姿をこれからも突き詰めてほしいですね。

② これからの課題。

- ★4年生まではキッズサッカー。どの年代でもそうですが、サッカーを楽しむことがいちばん。
誰のためのサッカーか。自分が楽しいからやっているサッカーだと思います。
楽しむためには、技術の向上もちろん必要。これからのキッズを考えて、U-10に必要な課題を考えました。

- ・ファーストタッチ
自分のもっとも蹴りやすいところに、いつでもどこでもコントロールできるようになってほしいと思いました。
- ・ボールをもらった後のプレー
もらって満足、ではなく、次のプレーにつながるが必要かなと思いました。もらった後にどうするかを考えることは、意識の問題。いつでもどこでも考えてプレーする習慣が有ると良いですね。
- ・キック
先にも書きました。しっかりと蹴ることができる。サッカーの楽しさの一つですね。是非、相手よりすごいキックを練習で身に付けてほしいですね。

(3) グリーンカード

- ・今回は、開会式で毎年あいさつがよいチームが勝ち残っているという話をしました。今年も、あいさつがすてきな選手がたくさんいました。ピッチに入っていくとき、スタンドで見ているとき、会場を後にするとき、いつでも“あいさつ名人”がたくさんいました。その様子を見た、たくさんの来賓の方々や関係者から、お褒めの言葉をいただいたこと、私たちもうれしかったです。
- ・また、ボールを拾ってもらったときに「ありがとうございます」とすぐに言える選手もすてきでした。感謝の気持ちですね。
緊迫した試合。その中で、私がボールをひろって、とある選手に渡しました。「ありがとうございます」と言ってきたのでグリーンカードを出しました。びっくりしたのはその後です。試合後に「さっきはグリーンカードありがとうございました。」とお礼を言ってくれました。15年ほどキッズサッカーに関わっていますが、初めてでした。サッカーを楽しみ、グリーンカードに値するフェアな心を持つ選手が今回いたことにうれしさを感じました。
- ・グリーンカードの精神とは
 - ① フェアプレー
 - ② 相手をリスペクト（尊敬する、大切にすること）
 - ③ 全力でプレー
 です。
この思いを持ってプレーすることは、これからのサッカー人生にプラスになると思います。いつも心にグリーンカードの心を持つ選手が増えるように、私たちももっとほめていきたいと思っています。
U-10 キッズの、参加したみなさんに、「グリーンカード！」です！

(4) 楽しさと質の向上

- ・キッズ年代は、育成年代でも「楽しさ」が特に大切な年代です。もちろん、上達していくように指導することもとても大切です（だからこそ、課題を上記しました）。
- ・しかし、技術同様に、全力でやること、協力すること、感謝すること、まわりに感動を与えられたり、自分たちが感動させられたりするくらいに取り組むことが大切だと子どもたちのプレーを見て思いました。
- ・是非選手の皆さんと監督スタッフの皆さん、保護者の皆さんには、楽しさを感じることを第一に、質を向上していくことをキッズスタッフとしてお伝えしたいと思いました。

4 最後に

最高の芝生のピッチで、キッズのみんなが最高のプレーができたこと。これは、たくさんの方々のサポートがあったからできたことでした。

特別ゲストのグルージャ盛岡松田賢太さんには子どもたちへの声かけをたくさん岩手の子どもたちのために力をいただきました。ありがとうございます！

盛岡市体育協会と共同主催で運営したキッズサッカーフェスティバル。ゼビオスポーツ様、岩手朝日テレビ様をはじめたくさんの方々のお力添えや、ユース審判を初めとする高校生の力、その高校生を快く派遣して下さった各高校の先生方、岩手県サッカー協会キッズスタッフのおかげで、このゼビオカップキッズサッカーフェスティバル2018を開催することができました。

また決勝戦特別解説としてサッカー解説者の松木安太郎様にも来ていただきました。

おかげさまで、子どもたちの笑顔に出会うことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

【編集】蝦名浩明(県協会事務局)